

令和2年度大阪府立鳳高等学校 学校運営協議会（第3回）議事録

大阪府立鳳高等学校

校長 田中 肇

回答期日 令和3年3月26日（金）  
 開催形式 文書開催（有効回答5名）

議題1 令和2年度学校経営計画及び学校評価について

	ご意見
蒲生委員	<p>○概ね達成できていると思われます。</p> <p>ただ、細かく見ると以下のような点について意見、質問、提案があります。</p> <p>① 中期的目標の4（学校力の向上と～）について、この項目は1の「めざす生徒像」の項目にはないものです。従って、別枠で記載されてはいかがでしょうか。</p> <p><b>〔事務局回答〕</b></p> <p>・令和2年度の「1 めざす生徒像」と「2 中期的目標」及び「4 本年度の取組内容及び自己評価」との間に齟齬がありましたので、令和3年度は、「1」・「2」・「4」の各項目間の整合性が取れるように変更しました。</p> <p>② 4（1）OJTは一般には新任教員や教育に不慣れな教員に対する手法と思いますが、具体的にはどのような教員に、どのような方法で行っているのでしょうか。</p> <p><b>〔事務局回答〕</b></p> <p>主として、次のような形で新任や中堅教員の力を高める取組を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に初任者として着任して担任を一回り終えた教員や本校が2校目の勤務校となる中堅教員を分掌や校内委員会の長に任命する。</li> <li>・初任者研修、5～9年目研修、10年経験者研修等の受講者がその受講内容について校内で実践し、研究授業等で成果を発表する。</li> <li>・ICT活用授業委員会、観点別学習プロジェクトチームなどに所属し、各組織の中心となって実践を行い、その成果を発信する。</li> </ul> <p>③ 5つの※に具体的な数値目標が矢印→で示されていますが、この目標数値の根拠と経年の低下傾向の理由、および改善方策（目標達成方策）をお教えてください。数値を明示して自己評価する以上は、改善策を明示する必要があるかと思えます。</p> <p><b>〔事務局回答〕</b></p> <p>○目標数値の根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値は、前年度までの実績値や学校教育自己診断による集計値を維持又は上回るよう設定しています。</li> </ul> <p>○経年の低下傾向の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年1月から大学入学共通テストが実施されることとなったため、令和2年実施の国公立大学入学者選抜は、安全志向が強く働き、難易度の低い大学に志願先を変更する傾向がありました。本校生徒も国公立大学から私立大学に志願先を変更した者が多く、国公立大学の進学者が減少しました。</li> <li>・難関私立大学については、私立大学が定員を超えて合格させる人数を抑えたこと、及び先述の安全志向による難易度の低い大学への志願先変更という2つの理由により、合格者数が減少しました。</li> <li>・他の項目については、5%以内の増減で推移しており、概ね目標値の達成が維持されていると考えております。</li> </ul> <p>○改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何となく大学に行きたい」ということではなく、目的を持った進路選択及び進路希望の実現につながる科目選択ができるよう、科目選択説明会やガイダンス等の改善を進める予定です。</li> </ul> <p>④ 4（3）「PTA・後援会・同窓会（鳳友会）等と連携した～」と記載されていますが、本「学校運営協議会」の記載はどこにもありません。「学校運営協議会」の位置づけ（任務・役割）を考え、「連携、諮問」など適切な言葉で「学校運営協議会」について記載加筆を検討していただきたいと思います。</p>

	<p>〔事務局回答〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会は、これまでも本校の学校運営に対する貴重なご意見や提言をいただくとともに、本校の取組を強く後押ししていただくなど、地域社会と連携し、社会に開かれた学校づくりを進めるために重要な役割を果たしていただいておりますが、法令・例規上、設置、委員の任命、役割等について規定されていることから、学校経営計画にその役割や連携について記載してきませんでした。</li> </ul>
船橋委員	達成
甲斐委員	<p>新型コロナウイルスの影響下において、いろいろと障がいが多い中で重点目標が概ね達成できたことは素晴らしいことです。</p> <p>教員・生徒・ご家族の皆様の普段からの関係性の賜物だと思います。この風通しの良い校風を守って行って欲しいと思います。</p>
鈴木委員	<p>概ね計画された事業が達成できたと思われまます。</p> <p>今年度からホームページがリニューアルされました。新型コロナウイルス感染症対策等で多忙を極めたことは理解していますが、保護者向けの情報発信に一層努めて下さいますようお願いいたします。</p> <p>〔事務局回答〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向けの情報発信については、Google Workspace for Educationの機能を活用して実施していく予定です。</li> <li>・学校Webページについては、閲覧する方のニーズに合った情報が提供できるよう、運用に努めてまいります。</li> </ul>
中村委員	すべての評価項目の目標が達成されており素晴らしいです。

## 議題2 令和3年度学校経営計画（案）について

ご意見	
蒲生委員	<p>中期的目標及び今年度の重点目標について・・・〔○承認いたします〕</p> <p>① 中期的目標と社会人基礎力の関連性（マッチング）が明確に記述されており、前年度と比較して理解しやすい優れた「学校経営計画」になっています。</p> <p>② 上記議題1の①で述べた点が、明確に改善されておりわかりやすい資料になっています。一方で、重要な「学校力の向上と効率的な学校運営」が消失しています。この項は令和3年度ではどの箇所でもカバーされるのでしょうか。</p> <p>〔事務局回答〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度中期的目標「4」に記載している内容については、他の項目に記載している取組を支える内容であることから、令和3年度の学校経営計画では、関連項目に移動させています。</li> </ul> <p>③ 令和2年度と比較して、「2 中期的目標」の1や3で項目の記載順序が入れ替わっています。この理由をお教えください。令和3年度の重点施策の順番でしょうか。</p> <p>〔事務局回答〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力で提示されている「力」の相互の関係性により、順序を整理しています。</li> </ul> <p>④ 主な取組計画がかなり加筆訂正されています。具体的できめ細かい計画で実行しやすい内容になっています。加筆訂正された理由をお聞きしたいところです。一方で、具体的であればあるほど自己評価時点での達成・未達成が明確になります。今から令和3年度末の自己評価のやり方を考えておくことも肝要かと思えます。</p> <p>〔事務局回答〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標を社会人基礎力と対応させたことに伴い、主な取組の欄にも【……する力】という形式で追記しました。また、令和2年度中に、新たに浮上してきた課題や取組を通じて焦点化された課題等については、追加・修正しています。</li> </ul> <p>⑤ 中期的目標1(2)のアンダーライン部「主体的・対話的で～」に関して、この記述は令和2年度の2(1)から移動されたものですが、一般に「主体的」「対話的」のワードは共に大切ですが、概して逆の意味にも取れます。並べて記述するのが適切かどうかです。「自己の軸（主体）をブレさせることなく、生徒間でコミュニケーションを取り互いを尊重しましょう」との意味を意図されたのでしょうか。</p>

	<p>〔事務局回答〕</p> <p>・「主体的・対話的で深い学びの実現」は、令和4年度から実施される新学習指導要領の柱の一つとなっています。「主体的な学び」と「対話的な学び」の一方の偏ることなく、それぞれの学びを関連させ、繰り返すことにより、「深い学び」を実現するという考え方です。</p> <p>※「主体的な学び」  学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるような学び。</p> <p>※「対話的な学び」  子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めるような学び。</p>
船橋委員	承認
甲斐委員	承認 中期的目標3－重点目標（1）発信力・傾聴力・柔軟性について SNSといじめ問題、差別問題、情報発信力は切っても切り離せないものです。 発信する内容やセキュリティ等についての教育がこれまで以上に求められています。 トラブルを事前に防ぐために教育の徹底をお願いします。
鈴木委員	原案について異存ありません。
中村委員	承認 時代の要求に応える経営計画に変更されていて良いと思います。 ・観点別学習状況評価への移行 ・積極的なICT活用 ・生徒・保護者とのgoogle classroomを使った連絡 以上3点は、今後ますます必要となる項目で納得できます。

### 議題3 令和2年度学校教育自己診断について

	ご意見
蒲生委員	<p>① 多様な観点から詳細にまとめられており、優れた貴重な報告です。報告書P.20にも記載されているように経年比較を詳細に分析すれば、今後の課題の方向、中期的目標や次年度の取組みに活かせるでしょう。さらに、深掘りするために、同様のアンケート項目について、府内他校や、国内高校、グローバル的な比較を可能な範囲で行ってはどうでしょうか。新たな知見が生まれそうです。</p> <p>② 鳳高校の受験理由の項目で、「単位制高校だから」が保護者12%、生徒14%と非常に低い値です。鳳高校の最大の特徴は将来の自分を見据え、なりたい自分ありたい自分に役立つ授業を任意に受講することができる「単位制高校」にあると思います。この数値を受験理由の第一位にすべく「魅力ある単位制高校」を旨とする取り組みを引き続き強力に推進されることを大いに期待しています。</p>
船橋委員	教員の世代間の意識の違い、中学校でも課題です。一緒に解決策を見つけられたらと思います。
甲斐委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの回答率について 2年生、3年生の保護者の方の回答率が低くなっている理由が気になります。</li> <li>スマホの使用時間について 約6割の生徒が1日平均3時間以上スマホを使用しているのにはビックリしました。</li> </ul>
鈴木委員	<p>詳細な分析と考察ありがとうございました。</p> <p>自己管理能力の項目におけるスマートフォンへの依存度に今日的な課題を見た気がします。使い方次第で優れたツールにもなりますが、個々の生徒によっては遊び道具にすぎない場合もあります。学校だけで対処できる問題ではなく、主として家庭における課題と受け止めています。</p>
中村委員	<p>保護者からの様々な記述回答は、今後の学校運営において宝庫のように思います。納得できる要望に応じていくことでさらに良い学校になるでしょう。</p> <p>進路指導については、正確な情報を常にアップデートして伝える必要があります。特に所得の問題が今後ますます問題となり、ピンポイントの受験指導が問われることになるでし</p>

	<p>よう。</p> <p>スマホの使用時間を減らすことは、Youtuberが人気の職業の上位になる時代ですから、今後、かなり難しくなるでしょう。</p> <p>自己診断報告者を作成された先生の分析力は高くしかも詳細です。編集後記に取り上げられた問題に従って目標設定をされたら良いと思いました。</p> <p>教員組織の問題は、知識やノウハウの共有化が難しい点です。データベース化などを検討されてもよいかもしれませんが、まとめにもあるように、一番は話し合う時間をどう確保するかでしょう。</p>
--	---

#### 議題4 令和2年度観点別学習状況の評価について

	ご意見
蒲生委員	<p>① 約半年間の短いプロジェクト活動でしたが、担当教員の方々は様々な工夫をされ、積極的に取り組まれていることが良くわかる「研究のまとめ」でした。このような取り組みは今年から実施された「大学入学共通テスト」に対応できる能力の育成に大いに貢献するものと思われます。</p> <p>本観点別学習状況の「評価プロジェクトチーム研究まとめ」は、私自身、大学での授業で取り入れさせていただきたい貴重な研究成果が多々みられました。</p> <p>② 以下、細かくなりますがいくつかコメントさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初の評価基準は教員間で十分議論されて決定されたと思いますが、事前に数種類の評価事例を想定してマニュアルを作っておき、実授業で生徒評価をその尺度に照らし合わせれば、教員間の差異は少なくなるかと思えます。わが大学入試では、模範解答から逸脱した回答例を多数想定し、どう評価するかを共有しています。</li> <li>・生徒には、予め課題を知らせておき言葉の意味や背景を予習させておくことが大事だと思います。いきなり授業で課題を与えるより、生徒間の思考や対話が事実や総体的比較に基づいたより深いものになると思います。</li> <li>・生徒に予め評価基準をオープンにしていたか。もし知らせていなかったのなら事前に知らせておくべきだと思いました。生徒は評価基準を意識して考え表現するものです。また、改善点を示しつつ評価結果を生徒にフィードバックされていたでしょうか。成長には必須のプロセスだと思いました。</li> </ul> <p><b>〔事務局回答〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準については、各教科で実施した試行の多くで生徒にオープンにしています。しかし、生徒の実際の成果物は、あらかじめ設定した評価基準に適合しないことが多く、評価基準を見直すこともありました。適切な評価基準の設定ができるよう、令和3年度も試行を継続します。</li> <li>・観点別学習状況の評価は、目標や内容に照らして、その実現状況を観点ごとに、A（十分満足できる状況）・B（おおむね満足できる状況）・C（努力を要する状況）という3段階で行いますが、これまでの試行の中で、「B」評価＝低い評価であると受け取る生徒が多いことがわかっています。これは、学習の目標が曖昧であることや評価結果を伝える際に改善点が十分に示せていないためと考えております。令和3年度の試行で改善をめざします。</li> <li>・観点別学習状況の評価は、これまで高等学校で行われてきた評価から、教員も生徒も大きな意識の転換が必要となるため、観点別学習状況の評価についての理解が進むよう努めます。</li> </ul>
船橋委員	<p>堺市・和泉市の中学校と連携した取り組みは画期的だと思います。</p> <p>今後も小中との連携を深めていただきたい。また、高大連携に中学3年生を参加させていただける機会があれば喜んで参加する中学生がいると思います。</p>
甲斐委員	<p>まだ試行段階とのことですが、どのようにして評価に繋げていくか、そこが今後の課題だとは思いますが、非常に良い試みだと思いますので、試行錯誤しながら進めていただきたいと思います。</p> <p>それにしても、いつもながら教員の皆様の地道な活動には頭が下がります。</p>
鈴木委員	<p>各先生方の取り組みの結果が、次年度以降の授業に効果が発揮されますようお願いいたします。</p>
中村委員	<p>鳳高校が最も早くプロジェクトチームを作り取り組まれているようです。</p> <p>研究まとめも興味深く拝見しました。フロントランナーとして、他校に影響を与えるような成果につなげてもらえれば素晴らしいと思います。</p>